

平成27年度 調査研究実績書

1 テーマ名

アスパラガスの改植方法の確立

2 目的

全国で行われている改植事例を調査しながら、当地域に適した方法を確立する。

3 調査研究の内容

- ・全国事例の把握
- ・事例に基づいた改植技術の体系化
- ・体系化した事例を基に、現地展示実証を行う。

4 成果

- ・佐賀県，香川県，鳥取県の事例および県内の事例について把握，共有できた。
- ・把握した事例をもとに，三次市布野町の露地圃場の改植を行う際の処理方法を決定し，展示ほを設置した。（図1～図6）
- ・アレロパシー活性について調査する手法について理解，共有できた。（表1）
- ・湛水処理や既存株の除去が連作障害対策として有効であることが示唆された。

5 普及指導活動における活用方法

今後，継続して展示ほの調査を行い，湛水処理・既存株除去・土壌消毒について連作障害対策としての有効性を確認する。

アスパラガスを改植する案件が出てきた際に，調査研究で把握した全国の実例や展示ほ結果を連作障害対策の処理方法決定の検討材料とする。

6 留意事項

なし



図1 萌芽状況(5/15)



図2 既存株の掘り起し(6/5)



図3 湛水後の状況(8/11)



図4 畦立(9/16)



図5 土壌消毒(9/18)



図6 定植後状況(11/18)

表1 アレロパシー活性調査結果 (6個体平均, コントロールは3個体平均)

	湛水前	湛水後
既存株除去	15.4mm	17.0mm
既存株すき込み	13.7mm	15.7mm
コントロール(土壌無添加)	18.0mm	

湛水前または湛水後、および既存株除去または既存株すき込み処理を行った土壌から作成した培地でレタス種子を用いた生物検定を実施した。レタス根長が短いほどアレロパシー活性が高く、連作障害を起こす可能性が高いと考えられる。